

# とよなか 環境



## ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21  
 編集責任者：奥野 享  
 事務局：豊中市環境情報サロン内  
 〒561-0804 豊中市曾根南町1-4-3  
 Tel: 06-6863-8792 Fax: 06-6863-8734

### この号のハイライト

P. 1 環境展のお知らせ/P. 2 自然部会/P. 3 リサイクルプラザ見学に体験も導入/P. 4 天竺川プロジェクト/P. 5 生活部会/P. 6 環境と私/P. 7 環境政策室/P. 8 カレンダーモニター学習会

2005年(平成17年)12月号 NO. 13 (通巻第31号)

## いよいよ12月2日から環境展

**今年も楽しい企画が盛りだくさん**

例年開催しており、今年で14回目をむかえる「とよなか市民環境展」を12月2日(金)・3日(土)の2日間、両日とも午前10時から午後4時まで開催します。今年のテーマは「ちよこっとエコ(温暖化防止のヒントいっぱい)」です。最近の報道を見ると、世界中で異常気象と気象災害が頻発しています。また、今年2月には国際的な約束である「京都議定書」が発効しました。豊中でも地球温暖化を防ぐためにできることがあるはず。誰でもできる「ちよこっとエコ」から始めましょう。地球温暖化の原因となる無駄なエネルギー、余計な消費も減らせるちよこっとエコな情報など、温暖化を防ぐヒントがいっぱいあります。

ちよこっとエコ  
温暖化防止のヒントいっぱい

# とよなか市民 環境展 2005

■2004年に発生した主な気象災害

2005年12月2日(金)・3日(土)  
 (両日とも10:00~16:00)  
 (とよ)豊中市民会館・アクア文化ホール(2日のみ)  
 豊中市曾根東町3-7-1 阪急宝塚線曾根駅下車、東へ3分 ※ご乗車の際は、バス・電車をご利用ください。

※市民団体・企業・行政・学校などの環境活動・情報展示  
 ※映画「デイ・アフター・トゥモロー」上映(2日アクア文化ホール)  
 ※企業展示「エコな暮らし方と住まい」  
 ※子どもたちの環境への取り組み発表(2日アクア文化ホール)  
 ※ソーラーカーの展示・試乗(3日豊島公園)  
 ※自然物を使った工作教室  
 ※天然ガス自動車の展示  
 ※環境学習・地球温暖化実験コーナー  
 ※「とよっぴー」で育てた野菜、減農薬野菜の無料配布(3日)  
 ※豊中の竹を焼いて作った竹炭・竹酢の無料配布  
 ※豊城駅周辺で使える環境クーポン券の発行  
 ※関連行事：12月3日 13:00~20:30 アクア文化ホール「おおさかビュートンフェスタ2005 inとよなか」  
 ※イベント内容は都合により変更する場合がございます。

主催 NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21  
 共催 豊中市・とよなか市民環境会議  
 後援 豊中市教育委員会

お問い合わせは、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21 ☎06-6863-8792

ちよこっとエコな暮らし

今年は、大阪産業大学のソーラーカーがやってきました(3日のみ、豊島公園にて)。ソーラーカーレースで2位になったり、シルクロードの横断にもチャレンジした車です。

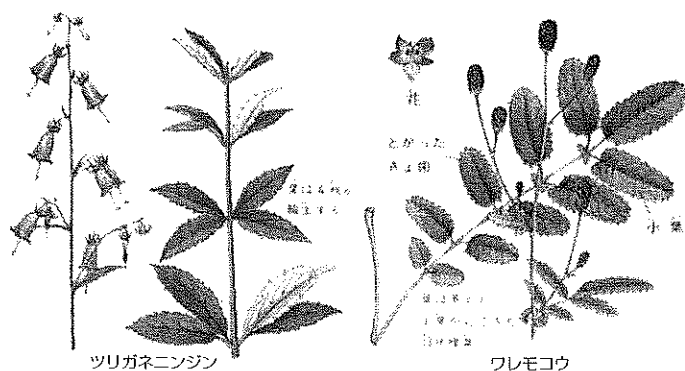
2日(金)にはアクア文化ホールで、映画「デイ・アフター・トゥモロー」の上映や子どもたちによる環境への取り組みの発表会も行います。今年も小中学校

に呼びかけ、多くの子どもたちが見学に訪れます。今年のテーマに沿った企画展示「エコな暮らし方と住まい」では、太陽光パネルや家庭用ソーラーシステムなどの実物を見ることができ、具体的なエコな暮らし方を提案しています。

その他、楽しくてためになる企画をたくさん用意していますので、是非ご来場ください。

豊中の自然環境の急激な変化は、残された緑地の植生にも大きな影響をあたえていることが懸念されている。自然環境の保全を考える上でその実態を把握することが急がれている。

自然部会では過去2年間にわたり豊中の環境で生育してきた在来の植生、とりわけ希少種になりつつある植物を中心に調査が行われている。今回は市の北部に位置する千里中央公園の緑地部の希少種調査があったので参加した。



整備されて37年の公園に入り、豊かな緑に囲まれると「失われていく豊中の緑」というフレーズを、一瞬忘れる。公園樹として植えられた樹木は環境に順応

して比較的良好に生育している感じがした。しかし、草地の部分に覆う植生は外来種が殆どを占めている。とくにイネ科のメリケンカルガヤ、イヌムギ、ハルガヤ、チャヒキ等が公園一面に繁茂していた。公園が整備されたとき、土や肥料に付いてきたものや飛来したタネが根をおろしたものではないかということである。

公園の中には自然の雑木林の部分も残されているが、竹の繁茂のために痩せ衰えているのがわかる。現在、竹炭プロジェクトによる竹の間伐作業が進み、一部クヌギやコナラが力を取り戻してきている部分も見られた。竹と雑木の程よい共存を目標に続けられている間伐作業は、今年で4年目に入っている。一方、足元の落ち葉の上にはササユリ、キンラン（春に確認）がひっそりと残り、フユノハナワラビ、コウヤボウキ、アケビ、サルトリイバラ、も顔を覗かせている。希少種になっているツリガネニンジン、フレモコウを確認した人もいた。私はヤマジソに初めて出会った。

希少種調査に何回か参加する中で、今回のように土壌環境に手が入れられていない土地では過去の調査でも確認されている種が、心許なげではあるが「まだ残っている」事を確認できて嬉しかった。調査を通じて豊中の土地に生きてきた在来植物が残されていく自然環境の確保が急務である事を実感した。（桑島いつ枝）

## 天竺川の清掃 7メートルの梯子で川に降りる 自然部会

9月8日、八坂橋から下流100メートルまでの清掃に参加しました。参加者は、市環境部15名、池田土木2名、市民3名、部会員6名でした。

昨年までは、水の深い所がありごみを取り出すのに苦労したり、膝まで水につかって土砂に埋まった物を引き上げるのに二人がかりでしたり、大変でした。

今年2月から4月に河川の改修工事がありました。護岸の際や川底が深くなっている所を保護するために、カゴマット（中に石を詰めたもの）を敷いたので、ごみの回収に今までのような苦労はありませんでした。

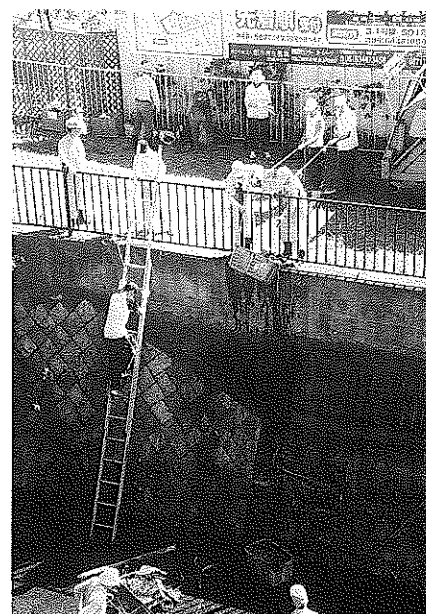
7メートルの梯子1本で川に降り作業をしました。集めたごみは、ロープで引き上げ清掃車で運びました。燃えるごみ230kg、燃えないごみ230kg。毎年少しずつ量は減っています。今年は藻が少なく、バッテリーや脚立の類はありませんでした。

改修工事の後、川の様子が変わりました。以前は、中洲に野草が茂りその両側を水が流れ心がなごむ場所でした。今は、カゴマットに藻やごみがついているので、ここに植物が生えてほしいです。

自然環境調査をされている柿本修一さんが魚の採集をされました。メダカ・ドジョウ・モツゴ・カダヤシ・ヨシノボリ類がいました。もっと時間があれば、まだいたかも知れませんがとのことでした。

川辺にハクセキレイも餌をとりに来ていました。魚や虫たちが、住みやすい場所になるよう、川の清掃が続けます。

この場所は、ぜひとも川に降りやすい施設を作ってほしいです。（岡秀子）



10月26日(水)13時20分より恒例の市民施設見学の一環として緑と食品のリサイクルプラザ見学が行われた。当日の参加者は市民9名と17中学校の職業体験学習(正式授業として)の生徒2名であった。

従来は、施設の見学と説明、質問があればそれに答える形式で行われてきた。この方式は無難であるが、参加者の印象はどうしても薄くなる。

今回は体験を取り入れようという案が浮上した。広報公聴課、公園みどり推進課、花と緑のネットワークの間で何度も連絡がとられた。広報公聴課も担当の山口さんが定例会に出席して説明をするなど力を入れた。体験があるなら参加しようという市民もいて、ネットワークの人を喜ばせた。

さて、当日は爽秋に恵まれた。対応するメンバーの6名は待ちながら仕事をしていた。最初に浅井が今回

とよっぴーも花と緑方式の段ボール堆肥も剪定枝を入れているのが特徴である。剪定枝は空気の流通をよくするので、醗酵が順調に進行する。そのため腐敗よりは醗酵が進行するので、嫌な臭いは発生しにくい。

いよいよとよっ

ぴーの袋詰め体験となった。榎田さんの担当である。もう一人が口を広げて持っている20リットル入りの袋にスコップで投入する。「入れ過ぎ」とか、「ちょっと足らん」とか賑やかなこと。次の行程は袋のヒートシールである。袋の口をそろえてヒーターで挟む。1・2・3・4・と声をかけて加熱時間を決める。時間が短いと接着が悪い。長いと袋の口が融ける。結構コツがいる作業だが人気があった。年齢の高い人も面白そうに作業に取り組んでいた。作業をうまくやろうという工夫と二人が組んでのチームワークは楽しそうであった。見学コースに体験を取り入れたのは成功のようだ。

岸田さんの出番は「がんばれ とよっぴーマン ものがたり」の紙芝居。参加者が熱心に袋詰めに取り組んだので、紙芝居の時間に食い込んでしまった。岸田さんの名演で盛りあった所で幕切れ、続きは各自の想像にお任せとなった。

最後は高島さんのネットワークの活動の話と、とよっぴーで育てたさつま芋をふかして賞味の機会。結構美味しいとの声が聞こえていた。

最後に、初めての試みの評価を聞くためにアンケートを配布した。結果が待たれる。(浅井 正)



資料を説明するメンバー



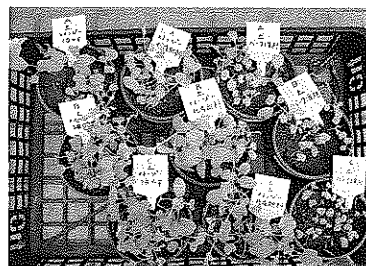
とよっぴーの袋詰め体験

体験を取り入れた趣旨を説明した。好意的なまなざしがあった。東所長がとよっぴー製造設備を丁寧に説明した。一次熟成槽の若い堆肥をスコップで掻き起こすと湯気が立ち上がった。温度計は69度で、まさに堆肥は生きていることを示していた。次いで中村さんがリサイクルプラザの誕生から今日までの歴史を分りやすく説明した。その後は、豊田さんが家庭の生ごみから段ボールを利用して堆肥の作り方の実演と説明をした。段ボール堆肥はリサイクルプラザと同じ方法だが、米ぬかを入れている。

## とよっぴーによる小松菜の発芽実験をしました

とよっぴーを作りはじめて3年、この間成分分析や重金属の溶出試験などいろいろなテストも重ねてきましたが、今回は小松菜を使い他の肥料との差異についての簡易発芽実験です。具体的には、土壌に加えて、とよっぴー、パーク堆肥、油粕、化成肥料、油粕と化成肥料などを混合比率を変えたりして、18種類の試料による実験でした。これまで、野菜を種から育てるときの生育材としては、とよっぴーは不向きではないかという考え方もありましたが、実験で分かったのは

パーク堆肥、油粕、化成肥料などを使ったものと比べ発芽や生育の障害はなく、根は短くても傾向的にはその方が良質な小松菜であることも整理できました。簡単な実験ではありましたが一般的な傾向としての肥料の特徴がわかりました。



## 意欲的に服部緑地・天竺川周辺の魅力づくりプロジェクト

アジェンダ21改定版には、4つのプロジェクトを立ち上げることが記されていますが、それだけでなく昨年頃から動き出している服部緑地・天竺川周辺「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会も府、市との協働でワークショップなど意欲的な取り組みが動いています。



服部緑地のすぐ西側を流れ、豊中市南部のほぼ中央を流れる天竺川は、服部緑地と一体となった緑のネットワークとして、地域にとっても貴重な財産です。これらを地域の顔としてより魅力的にしていけるためのプロジェクトとして、昨年より協議会を立ち上げて進めています。

協議会は、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21・豊中市環境政策室・大阪府池田土木事務所の3者が協働で事務局を務め、周辺の学校・幼稚園・地域組織・関係する市民団体・行政機関などが参加しています。

昨年度行ったワークショップなどでの検討の結果、まずは天竺川に関心を持ってもらうこと、そのために地域ぐるみで取り組みを進めることとなり、その最

初のきっかけとして、今年度は8月27日に「天竺川を知ろう、遊ぼう!」というイベントを開催しました。

当日は、西願寺橋のすぐ下流側に仮設の階段を設置し、安全に川に降りられるように努めました。子ども22人を含む52人が参加し、スタッフ約30人と合わせて約80人がこの日に集まりました。

まず、川の中に入ってみんなでごみ拾いを行い、続いて川についての説明を聞きました。そして最も盛り上がったのは、網を持っての魚採りでした。川から上がると、あらかじめ天竺川の魚を採って水槽に入れておいたものをみんなでじっくり観察しました。普段は、堤防が高く川の様子がわからないため、親しみを持つことも少なかった天竺川ですが、思ったより水はきれいで、汚く見えるのはごみのせいだということ、魚など生き物もいっぱいいるということを実感することができました。

その後、現在フェンスで閉ざされた隣接する空き地を使い、原っぱ遊びも行いました。これは、この空き地をきちんと利用するための試験利用です。

半日の間に盛りだくさんの内容でしたが、日頃はあまり何とも感じていない場所がこんなにも魅力的だということに気づくきっかけとなり、これからみんなで取り組み、より良い環境・地域づくりを進めていくことにつながっていくことが期待できそうです。

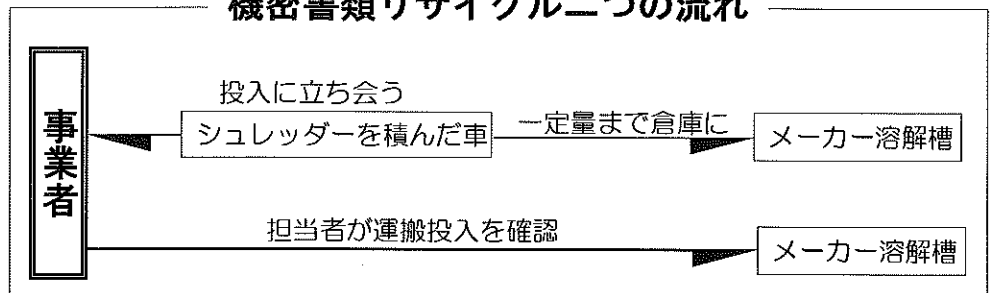
(井上和彦)

## オフィス機密文書のリサイクルを見学

オフィスの機密文書をリサイクルするにはどんな方法があるでしょうか。10月18日午後、機密文書リサイクルプロジェクトの見学会に同行し2つのケースを見てきました。

一つはシュレッダーを備え付けたトラックが出張して現場で機密文書をうけとり、立会いのもとで細かく裁断し散逸しないようにそのまま古紙ヤードに持ち込み運搬しやすいように針金で括り、まとめ

### 機密書類リサイクル二つの流れ



て製紙工場の溶解槽に持っていく方式です。シュレッダーから出てきた機密文書は斜めに引きちぎるように

# 2006年エコライフカレンダーできる

## 省エネ生活のためにさらに使いやすくなっています

2005年は大型台風やハリケーンの大被害など、世界各地の異常気象で地球温暖化が痛感されました。地球温暖化防止の活動として家庭でなにができるかが問題になり、温暖化の最大原因である二酸化炭素削減の行動として、環境家計簿がますます重要になってきています。エコライフカレンダーは豊中市民版の環境家計簿です。生活のなかで二酸化炭素の増大をたえず意識し、いっしょに話し合い、何ができるかを考え、実践する運動です。

できあがった2006年版エコライフカレンダーには、より使いやすいように毎月の電気・ガス・灯油・水道の使用量をモニターの平均と比較できるように、グラフの中に書き込むスペースもつくりました。

また、モニターの皆さんのより細かく二酸化炭素排出量をチェックしたいという積極的意見を入れ、新たに灯油の使用量を記入する項もできました。

カレンダーとしても身近に置いていただけるよう、各ページを飾るものとして、これまでも好評だった豊中の子どもの情景を写真にして大きくいれています。気に入っていただけると幸いです。

お願いがあります。ぜひ環境家計簿のモニターになっ

て二酸化炭素排出量のデータを末尾につけている葉書に記入して事務局に送ってほしいのです。豊中市民の二酸化炭素排出量を示す貴重な資料にもなるのです。

これまで続けてきた8年間の運動の結果、2005年はモニター数が180人に近くなり、集計作業にもいよいよ力がはいつてきていますが、2006年もこのエコライフカレンダーの運動を大きく拡大させたいと思っています。

またモニターになっていた方には、ニュース「モニター倶楽部」をとどけ、暮

らしの省エネのヒントなどお互いの体験を語り合ったり、意見交換もおこなっています。もちろん機会を作っては学習会も開いています。

なお、私たちのエコライフカレンダーについて少しばかり誇りに思っているのは、このような家庭でできる省エネ活動としての環境家計簿が市民独自の運動として続けられていることは、他にほとんど例がなく、そんな意味でも貴重な体験として広く多くの団体から注目されています。

このような運動を創って行く喜びを、ぜひいっしょに分かち合いたいと思っています。(奥野享)



裁断され、幅1センチ長さ6センチ余に細かくされていました。このくらいの大きさが、古紙として再利用できる最低限のサイズであり、プライバシーをはじめとした書類の機密性保持のためにはぎりぎりの大きさのようです。

もう一つのケースは、豊中市役所が機密文書をリサイクルするため持ち込んでいる大淀区内にある福山製紙の工場見学でした。福山製紙はダンボールの中芯になる紙や紙管(トイレトーパーなどの芯)の素材を製造しています。製品がダンボール紙と同じようなものですから、持ち込まれる原料のほとんどはダンボール箱です。機密文書は原料の中ではごくわずかで、豊中市の機密文書はダンボール箱のままホッパーから溶

解槽に放り込まれます。原料のダンボール箱にはガムテープや箱をとめている大きなホッチキスの針がついているので、溶解槽から取り出されたパルプ原料に混ざっているごみはホッチキスの針やビニール紐がいっぱい。金属類は金属としてリサイクルに、ビニール紐や糊のカスはRPF(ごみ固形燃料)になっているとか。(奥野享)



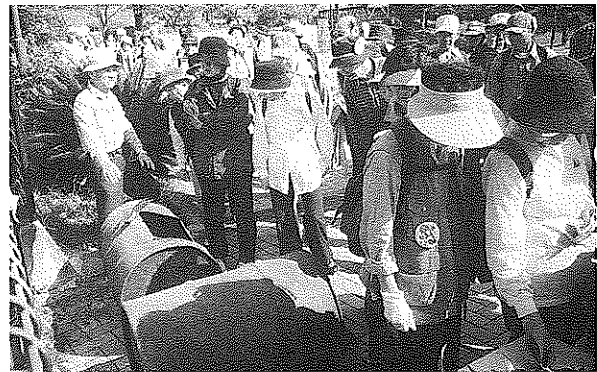
## ふれあいウォーク・竹炭のかまど・どんぐりの試食

10月30日(日)ふれあいウォークがあり、昨年は1人でしたが、今年は友人夫婦と3人で参加しました。健康を考へてできるだけこのような行事に参加するように心がけております。当日はスタッフを含め700人を超える参加者で西丘小学校は大変なにぎわいでした。ただ子どもさんが少ないように思いました。開会式後10時にスタート千里東町公園からこぼれび通りを抜け、人の波に押されるように千里中央公園に向かいました。

ところで、私はまだ日は浅いのですが、竹炭プロジェクトに所属しております。本来ならスタッフの一員として今回のお手伝いをしなければならないのですが、友人と以前からの約束でウォーキングを選びました。千里中央公園に着くとナンキンハゼやソメイヨシノなどの紅葉と常緑樹の緑が入り交ざってとてもきれいでした。見ると、メンバーと自然部会の皆さんがウォークに出展協力をしていました。

そんな中で私も関わっているのですが、3日前に焼いたばかりの竹炭焼きの窯をドラム缶ごと2基展示しておりました。友人も他の方も興味を示しながら窯の中を覗き込んでおりました。「竹材はこの公園で間伐したものを使って焼いたものです」とメンバーは説明しておりました。また、この公園で見られる8種類のどんぐりと野鳥の絵20数点を展示しているのですが、一度に大勢の方が集中したので説明におおわらわです。

他にはどんぐり(マテバシイ)も食べてみましたが、栗の味に似ていて、用意した1000粒のどんぐりは



11時にはすべて無くなったとか。

その後、上新田を通るのですが、旧新田小学校は明治生まれの大阪府で最も古い木造の小学校です。府の文化財に指定されております。今は使われていませんが毎年11月に一般公開されるそうです。私たちはおしゃべりをしながら新千里南町へと進みました。道路沿いには、りんご並木があります。数本の本には小さいながらも赤いりんごが生っていました。特に寒い地方でもないのに、このような光景に出会えるとは思っていませんでしたのでこれは新しい発見です。

千里南町公園で昼食をとったあと、1時頃西丘小学校に到着しました。嬉しいことに完歩賞にTシャツを頂きました。秋の一日好天に恵まれ、コースも私にとっては疲れず、ちょうど手頃でした。

今後は「とよなか百景」などを参考にして、夫々の公園なり名所をじっくり観察するのも良いなと感じながら家路に着きました。(出口和子)

## 環境とわたし

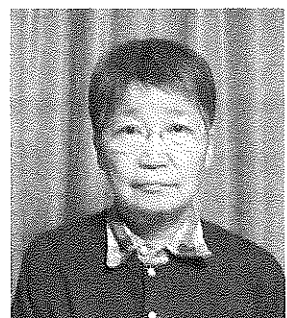
家庭菜園でできたきゅうりのおいしさを味わってから畑に興味を持ち、穴を掘ってもらって生ごみを埋め始めました。環境と何の関係も無くただ自分の思いだけのスタートでした。

仕事をやめる前から何か社会にお返しをしていきたいと考えていました。何をすればよいかは走りながら考えれば良いと思っていました。堆肥化講習会を広報で見て出かけ、これなら自分のスタンスでできるのではと「生ごみ堆肥化プロジェクト」に入れてもらいました。皆さんの熱い思いに触れて「土からできた物は土に返す」と言う考えに賛同し協力させてもらっています。

毎月2回堆肥化講習をさせていただいていますが、60歳以上の人は時間的に余裕があるので出席者も多

## 豊田佐都子さん

花と緑のネットワークとよなか



いのですが若い方は関心がないようです。かえって学校で学習する子供たちの方が受け入れてもらえそうです。逆流して子供たちから親に行くようになってくれればと思っています。食育やリサイクルを子供たちに定着してもらえればと思っています。

最近落ち葉の堆肥化にも力を入れています。落ち葉を焼却場で燃やす事に罪悪感を持っておられる方も多く、多くの方に受け入れてもらっています。

花と緑のネットワークでは豊中の落ち葉をなんとか燃やさないようにしたいなどと大きな夢をもっています。私も一緒に夢んでいます。

# 環境フォーラム2005が開催されました

ようやく秋めいてきた10月22日、すてっぴにおいて、とよなか環境フォーラム2005が開催されました。これは、2004年度の環境に関する報告と市民の交流、さらに次年度に向けて意見を求める場として毎年開催するものです。

同日「みどりのワークショップ」が、昨年のフォローアップとして午前10時から開催され、日ごろの活動の発表など、多くの市民の交流の場となりました。

2004年から2005年にかけて、京都議定書の発効、環境基本計画と豊中アジェンダ21の改定、さらにはアスベスト問題など、環境分野の大きな動きを受けて、フォーラムの前半は、豊中市環境報告書（2004年度中間報告書）をはじめ、これらの環境施策についての報告を行いました。



講師の原育美さん

第二部の講演では、環境ネットワークくまもと事務局長の原育美さんに「地球温暖化と身近な暮らし～果たそう、未来への責任～」と題して地球温暖化問題と私たち自身の生活とのかかわりについてお話いただきました。

「地球は、46億年前に誕生してから、40億年の歳月をかけ、『命』を育む『温度、水、大気、オゾン層、土、緑』を創りだしました。そして、3,000万種の多様な命は、これら6つの要素を循環し、絶妙なバランスで成り立つ地球環境システムを維持してきました。

しかし、今そのバランスが壊れてきています。自然の恵みに従い、ゆっくりと『もの』を作ってきた人間が、産業革命後、化石燃料というエネルギーを使って、大量生産・大量消費・大量廃棄を始めました。このままでは、地球の平均気温は100年間で2度上昇します。もし、自分が一本の『もみの木』だとしたら、環境の変化に耐えられず死に絶えるほどの激変なのです。

消費大国日本の姿を振り返って考えたとき、私たちにできることはなんでしょう。『自分の職場や家庭で、再生紙を買うこと。』『いつか誰かではなく、今、自分が動き始めること。』これは、自らの行動が地球温暖化防止に直接結びつくという、とてもストレートな考え方です。私たちも、今一度、自分の食生活や紙の無駄遣いを振り返り、何か1つでも行動に変えてみませんか？」と、地域に根ざした活動の大切さを、熱い思いとともに語りかけられました。

また、フォーラムに参加された方からは、「迫力のある講演で、エネルギーが伝わってきました。市民一人ひとりが行動しなくてはならないと感じました。」との感想をいただきました。



環境基本計画と豊中アジェンダ21の改定について、パネル展示も行われました。

# 学習会「環境にやさしい食生活と地球温暖化」

## カレンダーモニターの学習会

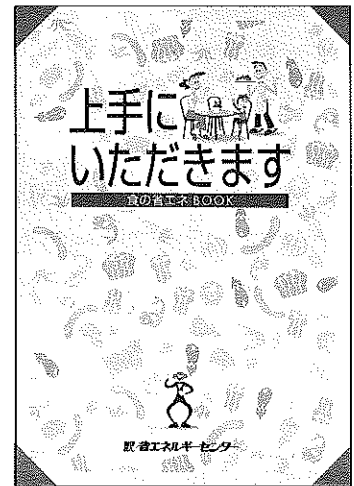
12月7日(水)午後1時30分からリサイクル交流センター会議室で、中口毅博さん(環境自治体会議研究所所長、芝浦工大助教授)を招いて学習会をもちます。テーマは「環境にやさしい食生活と地球温暖化」。

講師が昨年から取り組んできた全国の日本人の食生活についての詳細な調査を土台にして、省エネルギーセンターでは「食の省エネBook」がまとめられましたが、その調査を背景に日常生活のなかで見過ごされがちなエネルギーのムダ遣いについて、調査の経験をもとに、鋭く深くえぐる話が聞けそうです。

なお、このような学習会を開くにあたり、省エネ

ギーセンター発行の「食の省エネBook——じょうずにいただきます」も発行元からとりよせました。学習会の資料だけでなく座右に置いておきたい冊子として非常によくできたものです。環境展にも置いています。

(奥野享)



## 編集室から

▼環境情報サロン前の道を渡るとエノキの大木がある。その下にお地藏さんが10体あまり。煤けて正直見栄えはしないが、いつも新しい花が供えられているのが嬉しい。いっぺんにこのまちが好きになった。勝手に「エノキ地藏」と名づけることにした。(Z)

▼日没の時刻が早まり、千里川側を歩く時刻が夕食前になった。秋らしい風が吹いた日に、カルガモの家族5羽が一心に藻をついばんでいた。10月23日、豊中へ向かって歩いていると、3家族12羽を見つけ、やっとカメラに収めた。今年も、寒風を突いて訪れる鳥たちに出会えると思うと、わくわくする。(W)

▼20数年間、朝はパン食と決めていた夫が1日おきにご飯を食べ始めた。もっとお米を食べて自給率を上げ、米作りの技術も継承していかないと・・・それに昔のように食べ物を手作りして暮らせば、不燃ごみの日の山のような容器包装類もぐっと減るはず。(Y)

▼ガソリンの値上がりの影響か？ハイブリッド車の国内出荷台数が、前年比の57%増になったとか。人はカネの力に左右されやすいようだ。やっぱりCO2排出削減には環境税、レジ袋有料化等の規制が必要なの

かな。(N)

▼市役所では、「冬の省エネワークスタイル」の取り組みが始まりました。暖房温度の設定は20度に、重ね着などで暖房器具に頼らないウォーム・ビズに努めます。みなさんも、ご家庭でのご協力をお願いいたします。(K)

▼秋になると街路樹や公園・施設などの樹木が剪定されます。しかし葉っぱも枝もほとんど切り詰めて、幹だけにほんの毛がはえたようになっている樹木をよく見かけます。緑を少しでも増やすなら、もう少し自然のままでも良いと思うのは私だけでしょうか。(J)

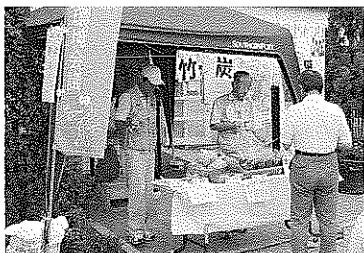
▼最近クイズ番組が多いですよ。IQとかPQとかいってます。やわらか頭になりましょう。さて、問題です。12月2日、3日の「とよなか市民環境展」で、いちばん楽しい企画は何でしょう？答えは会場の市民会館で見つけてね！(P)

《広報チーム》

Z奥野、W岩瀬、Y小村、N三宅、K荒井、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>  
Eメール [ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp](mailto:ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp)

## アジェンダにはあなたの居場所があります



豊中まつり 竹炭頒布



豊中まつり 自然クラフト



豊中まつり 野菜頒布

体を動かすのが好き、人と話すのが好き、世話好き、社会の役に立ちたい、仲間を作りたい、やりがいを見つけない、そんな人集まれ！